

## 介護する人・される人？

ある知り合いのご家庭で、4年間寝たきりのおばあさんがお亡くなりになりました。

その家族は、連れ合いのおじいさんと息子夫婦、そして孫2人の6人家族でした。

おじいさんにお悔やみを申しあげると、涙を浮かべながら、

「いつかはこの日が来ると覚悟はしていたけど、実際に亡くなると、本当に悲しくて・・・おばあさんは寝たきりだったけど、毎朝声をかけると『今日もまた会えましたね。』と、かすかに微笑みながらゆっくりと声にしていました。そのわずかばかりの会話や反応がもっと見られるようにと、2人の懐かしい思い出を話しかけながら側にいることが、私の生活そのものだったんです。」

さらに、おじいさんは、

「でも、弔問に来られた多くの方が、『長年大変でしたね。でも、これからは自分の好きなことをして、ゆっくりと過ごしてください。』って、励ますつもりで言ってくださるんです。そう言われると泣くに泣けなくて・・・」と話されました。

おじいさんの介護の思いを聞いて、自分自身がこれまで持っていた介護に対するイメージとの違いに戸惑い、ますますわからなくなっていました。

半年ほど経って、その息子さんから次のような話を聞きました。

「高校2年生になった子どもが、将来は介護士の仕事をしたいと言い出したんです。寝たきりのおばあさんを、おじいさんや私たち夫婦が毎日介護する姿を見てきて、介護の苦勞も知っているはずなのに、そんなことを言うようになったんです。“介護は大変”という目で見ていたものとばかり思っていたのに・・・正直びっくりしました。」

寝たきりの方が家におられると、「支える人・支えられる人」の関係で考えてしまいがちですが、互いに「支えつつ支えられる」というつながりも、よく見ればたくさんあるのだと、改めて感じました。

息子さんは、「おばあさんの介護を通して、子どもは成長させてもらうことができました。毎日寄り添うおじいさんの姿や、私たち家族の姿から、命の尊さや、家族の絆など、大切なものを感じ取ってくれたんだと思います。」と、続けてお話してくださいました。

おばあさんはお亡くなりになりましたが、このご家族にとって、本当に多くの宝物を残していかれたんだと感じました。